

2025 年度 通常総会議事録

表記の総会が、2025 年 5 月 17 日（土）18 時 00 分より富山国際会議場での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドにて、南美穂子 会長を議長として開催された。出席者 26 名（内訳：現地 21 名、オンライン 5 名）に委任状により表決権を委任した者 89 名（議長委任 89 名）を加え出席者は 115 名であることから、出席者が 2025 年 3 月 31 日の正会員数 384 名の 10 分の 1 以上となり、会則第 15 条により総会は成立した。以下の事項が報告・承認された。

I. 応用統計学会 2024 年度 事業報告（2024. 4. 1～2025. 3. 31）

1. 概況

2024 年度は、南美穂子 会長・田畑耕治 副会長と 16 名の理事、および栗木哲、富澤貞男の両監事の体制で活動した。

財務状況は赤字であった。ただし、これは会費の納入時期が変更になったためであり、会費 1 年分の収入が今期にあったならば黒字である。

2024 年度中の会員の入会、退会状況は、入会者数 28 名（内訳：正会員 16 名、学生会員 12 名）、退会者数 27 名（内訳：正会員 22 名、学生会員 5 名）であった。また、学生会員から正会員への変更は 2 名、正会員から名誉会員への変更は 1 名、物故者 1 名（内訳：正会員 1 名）であった。

この結果、会員数は 2024 年度末現在で 423 名である。内訳は正会員 384 名、学生会員 25 名、シニア会員 1 名、名誉会員 13 名である。また、賛助会員 5 社、機関・団体購読は 30 件である。

正会員、学生会員と名誉会員を足した会員数の推移は次のとおりであり、会員増への方策の検討が必要である。

	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末	2021 年度末	2022 年度末	2023 年度末	2024 年度末
会員数	426 名	432 名	437 名	422 名	432 名	423 名	423 名

2. 総会の開催

2024 年 5 月 9 日（木）17 時 45 分より九州大学医学部百年講堂での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドにて、瀬尾隆 会長を議長として開催された。出席者 29 名に委任状により表決権を委任した者 140 名（議長委任 140 名）を加え出席者は 169 名であることから、出席者が 2024 年 3 月 31 日（日）の正会員数 423 名の 10 分の 1 以上となり、会則第 15 条により総会は成立した。

3. 評議員会

定例評議員会は 2024 年 4 月 30 日（火）18 時 00 分よりオンライン会議（Zoom）にて、椿広計 氏を議長に選出の上、開催された。新旧合同の定例評議員会を開催するにあたり、旧評議員会で出席者 24 名に委任状により表決権を委任した者 5 名を加え、出席者は 29 名となった。また、新評議員会で出席者 27 名に委任状により表決権を委任した者 6 名を加え、出席者は 33 名となった。旧評議員数は 29 名、新評議員数は 33 名であることから、新旧共に出席者が過半数を超え、会則第 24 条により評議員会は成立した。総会に付議する事項等の審議と報

告などが行われた。

4. 理事会

対面と Zoom のハイブリッドによる理事会を 9 回（2024 年 4 月、6 月、8 月、9 月、10 月、12 月、2025 年 1 月、2 月、3 月）開催し、学会の運営に関する事項、会員の入退会に関する事項、学会などの後援や協賛に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.53 の No.1 と No.2 の 2 冊を発行した。掲載原稿は、Vol.53 の No.1 では 3 編（総合報告 1 編、原著論文 1 編、事例研究 1 編）、Vol.53 の No.2 では 5 編（原著論文 2 編、フォーラム 2 編、エッセイ 1 編）である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	46	47	48	49	50	51	52	53	平均
総ページ数	176	128	104	162	155	137	115	141	139.8
論文数*	8	5	5	11	8	8	7	8	7.5

*掲載された記事の数（研究論文/原著論文、総合報告、事例研究、研究ノート、フォーラム、資料、エッセイ）

6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し、以下のように学会論文賞を 2024 年度年会の学会賞表彰式にて授与した。また、受賞記念講演を 2024 年 9 月の連合大会で開催された企画セッション内で実施した。

優秀論文賞：徳田智磯、長尾大道

混合ウィシャートモデルに基づくマルチプル・クラスタリングによる低周波地震検出のための観測点選択, 52 (2), 99 – 112.

奨励論文賞：丸山大輔（共著者：青木敏）

階層ベイズモデルによる二項母集団の母比率の信頼区間の構成, 51 (3), 109 – 123.

7. 年会

2024 年度年会を 2024 年 5 月 9 日（木）に九州大学医学部百年講堂での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッドで開催した。

5 月 10 日（金）に応用統計学会主催による「高次元データに対するモデル選択」をテーマとしたチュートリアルセミナーにおいて、梅津佑太 氏（長崎大学情報データ科学部）による講演が行われた。参加者は延べ 269 名（応用統計学会会員：54 名、日本計量生物学会会員：215 名）であった。

年会では、一般講演 6 件、特別講演 2 件、学生セッション 4 件、ポスターセッション 7 件の発表が行われた。学生セッションの中から最優秀発表賞 1 名を選出し、ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞 3 名を選出した（*が受賞対象者）。

・最優秀発表賞

*中村慶太（東京理科大学）・中川智之（明星大学）・田畑耕治（東京理科大学）

Aitchison 幾何学に基づく正方分割表の対称性と歪対称性

・優秀発表賞

該当者なし

・優秀ポスター発表賞

*折原隼一郎（東京医科大学）・桃崎智隆（東京理科大学）・中川智之（明星大学）
 ベイズ統計学の枠組みを利用した安定的な逆確率重みづけ推定量の提案
 *小巻萌夏・篠田寛（横浜市立大学）・Haiyan Zheng（University of Bath）・山本紘司（横浜市立大学）
 がん第Ⅱ相臨床試験における Bayesian Sargent and Goldberg's Design
 *酒井真菜・松田孟留・久保川達也（東京大学）
 2次不偏なベイズ推定量の導出とその性質
 参加者は延べ105名（会員49名、非会員10名、学生35名、日本計量生物学会会員11名）であった。
 参加者数の推移は次のとおりである。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年	2022年	2023年	2024年
参加者数	55名	43名	66名	中止	115名	109名	104名	105名

8. 応用統計シンポジウムの開催

応用統計シンポジウム2024「スパース推定法による統計モデリング」を2024年11月17日（日）に慶應義塾大学三田キャンパス西校舎1階F519教室での対面とZoomのハイブリッドで開催した。参加者数は96名（会員30名、非会員45名、学生21名）であった。講演は以下のとおりである。

松井秀俊 氏（滋賀大学）

「Lassoの基本的な考え方とfused lasso, group lassoへの発展」

川野秀一 氏（九州大学）

「Lasso正則化項の拡張と一般化線形モデルにおけるスパース推定」

廣瀬慧 氏（九州大学）

「共分散行列に対するスパース推定」

高田正彬 氏（株式会社東芝）

「スパース推定の活用と発展 ―製造業を中心として―」

南茂尚義 氏（中外製薬株式会社）

「線形回帰モデルを用いた因果効果の推定におけるL1正則化法の役割と活用方法」

なお、共催・後援団体は以下のとおりである。

共催：共立出版 株式会社、慶應義塾大学経済学部附属経済研究所

後援：一般財団法人 日本統計協会、統計関連学会連合、一般社団法人 日本品質管理学会、統計数理研究所

9. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー「責任あるAI・データサイエンス技術の開発に向けて・説明可能性・公平性・安全性に向けて応用統計学が果たす役割」を2025年1月12日（日）に慶應義塾大学三田キャンパス北館ホールでの対面とZoomのハイブリッドで開催した。参加者数は85名（会員27名、非会員45名、学生13名）であった。講演は以下のとおりである。

神鷹敏弘 氏（横浜国立大学）

「機械学習と公平性」

原聡 氏（電気通信大学）

「説明可能AIとその信頼性」

村上隆夫 氏（統計数理研究所）

「差分プライバシーとグラフ統計解析への応用」

なお、共催・後援団体は以下のとおりである。
共催：慶應義塾大学経済学部附属経済研究所
後援：一般財団法人 日本統計協会，一般社団法人 日本品質管理学会，統計関連学会連合，
統計数理研究所

10. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2024年9月1日（日）～5日（木）に東京理科大学神楽坂キャンパスで開催した（主催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会）。会場で応用統計学会の広報のブースを設営した。
参加者数は延べ1,666名（チュートリアル参加者数267名，市民講演会参加者数271名，本大会参加者数1,128名）であった。本学会の企画セッションとして，応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：星野崇宏（慶應義塾大学），松井秀俊（滋賀大学））と，応用統計学会企画セッション「欠測データ解析の理論と応用」（オーガナイザー：西山貴弘（専修大学），山本紘司（横浜市立大学），首藤信通（神戸薬科大学・神戸大学））を行った。
大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである。

年	度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
大	会	1,114名	1,448名	1,402名	1,405名	1,772名	1,666名
チュートリアルセミナー		143名	335名	384名	271名	326名	267名

※ 2024年の数字は統計関連学会連合のウェブページでの報告

11. 関連学会等との後援・協賛・共催事業

合計3件（後援1件，協賛1件，共催1件）
2024年度に後援・協賛・共催した行事は次のとおり。
・ 日本TRIZ協会 第20回日本TRIZシンポジウム2024（協賛）
・ 第11回科学技術教育フォーラム（共催）
・ 統計数理研究所椿所長退任記念シンポジウム（後援）

12. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合
理事会（理事：南美穂子 会長，田畑耕治 副会長）
事業委員会（富澤貞男 会員）
統計教育推進委員会（藤井良宣 会員）

(2) 統計関連学会連合大会
2024年度大会
組織委員会（南美穂子 会長，田畑耕治 副会長）
プログラム委員会（山本紘司 理事，西山貴弘 会員）
運営委員会（石井晶 会員）

(3) 一般社団法人 日本計量生物学会
2024年度日本計量生物学会年会を後援，チュートリアルセミナーを共同主催

(4) 横断型基幹科学技術研究団体連合
理事会（理事：水田正弘 会員）
2024年度 代議員（田畑耕治 副会長）

- コトつくり至宝検討委員会委員（富澤貞男 会員）
- (5) 統計教育連携ネットワーク
連携学会として参加
 - (6) リスク研究ネットワーク
機関組織として参加
 - (7) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
協賛学会として協力
 - (8) 一般社団法人 データサイエンティスト協会
特別会員として協力
 - (9) IDWSDS (International Day of Women in Statistics and Data Science)
Friends of IDWSDS として協力

13. ホームページ、メーリングリストおよび学会公式 X の充実

ホームページを逐次更新し、学会員への情報公開を円滑にした。また、メーリングリストによる情報公開を行った。その他にも X（旧 Twitter）を逐次更新し、各種イベントなどに関する情報発信を行った。

14. DX 化

学会向け会員管理サービスを導入して、学会の入退会、個人情報の更新、年会費等の納付、大会イベントへの参加などをオンラインで行えるようにした。

15. 情報誌

学会員の情報交換や意見交換になる情報誌「応用統計学会 information」の No.8 と No.9 を学会ホームページ上に掲載した。

16. 名誉会員

2024 年度の名誉会員については、公募の結果、宮川雅巳 氏が名誉会員となった。2025 年度の名誉会員についても、2024 年度中に公募を行った。

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください。

会計監査について

- 日時: 2025年 4月14日(月) 13:00-14:30
- 場所: シンフォニカの会議室
(〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル3階)

- 出席者:

〈監事〉

栗木哲 先生 (統計数理研究所), 富澤貞男 先生 (明星大学)

〈会計理事〉

山本紘司 先生 (横浜市立大学), 岩本大輝 先生 (早稲田大学)

〈応用統計学会事務局〉

會田雅人 様

〈庶務(文書)理事〉

井本智明 (静岡県立大学)

Ⅱ．2024年度会計報告

応用統計学会会則に基づき、2024年4月1日より2025年3月31日までの会計経理を報告する。

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	1,422,500	2,025,000	△ 602,500
(1) 正会員	1,275,000	1,845,000	△ 570,000
(2) 名誉会員	5,000	10,000	△ 5,000
(3) 学生会員	42,500	47,500	△ 5,000
(4) 賛助会員	100,000	120,000	△ 20,000
(5) シニア会員	0	2,500	△ 2,500
2. 雑誌売上収入	213,000	180,000	33,000
3. 広告料	30,000	60,000	△ 30,000
4. 掲載料	10,000	250,000	△ 240,000
5. 年会等関係収入	1,788,008	1,430,000	358,008
(1) 年会収入	894,608	360,000	△ 5,392
(2) チュートリアル収入		540,000	
(3) フロントシアセミナー収入		0	
(4) シンポジウム収入		530,000	
6. 雑収入(著作権料・利息等)	63,766	100,000	△ 36,234
当期収入合計	3,527,274	4,045,000	△ 517,726
前期繰越金	5,806,056	5,806,056	0
収入合計	9,333,330	9,851,056	△ 517,726

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	1,222,288	1,640,000	△ 417,712
(1) 印刷費	988,900	1,200,000	△ 211,100
(2) 校正費	136,800	340,000	△ 203,200
(3) 通信・発送費	96,588	100,000	△ 3,412
2. 年会等関係費	1,333,004	1,320,000	13,004
(1) 年会支出	787,181	600,000	187,181
(2) チュートリアル支出	329,025	450,000	△ 120,975
(3) フロントアセミナー支出	46,128	100,000	△ 53,872
(4) シンポジウム支出	170,670	170,000	670
3. 管理費	1,085,976	1,087,000	△ 1,024
(1) 事務委託費	750,000	750,000	0
(2) 消耗品費	93,327	90,000	3,327
(3) 会議費	67,655	60,000	7,655
(4) 雑費	145,358	160,000	△ 14,642
(5) 事務合理化費	20,900	17,000	3,900
(6) 選挙費	8,736	10,000	△ 1,264
4. 役員旅費補助	63,060	100,000	△ 36,940
5. 関連学会協調事業費	70,000	70,000	0
(1) 関連学会年会費	20,000	20,000	0
(2) 横幹連合年会費	50,000	50,000	0
(3) 連合大会企画セッション支出	0	0	0
6. 学会賞	70,816	60,000	10,816
7. 謝金	234,640	100,000	134,640
8. 「学会ホームページ」改修費	0	500,000	△ 500,000
当期支出合計	4,079,784	4,877,000	△ 797,216
【参考】 当期収支差額	△ 552,510	△ 832,000	279,490
次年度繰越金	5,253,546	4,974,056	279,490
支出合計	9,333,330	9,851,056	△ 517,726

2025年度への繰越金の内訳

項目	2024年3月31日現在	2025年3月31日現在
銀行預金	583,150	1,237,862
郵便振替	5,222,906	4,015,684
合計	5,806,056	5,253,546

会計監査報告書

応用統計学会 殿

応用統計学会会則に基づき、2024年4月1日から2025年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2025年4月14日
監 事

富澤 貞男 (印)
栗木 哲 (印)

Ⅲ. 応用統計学会 2025 年度 事業計画 (2025. 4. 1～2026. 3. 31)

1. 機関誌の発行

「応用統計学」Vol.54 の No.1 と No.2 を発行する。

2. 情報誌の発行

「応用統計学会 information」No.10 と No.11 を発行し、ホームページに掲載する。

3. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞（優秀論文賞，奨励論文賞）を授与する。また年会の学生セッション（口頭発表）の中から最優秀発表賞と優秀発表賞，ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞を授与する。優秀論文賞と奨励論文賞の各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

4. 年会の開催

2025 年 5 月 17 日（土）に富山国際会議場での対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催の予定である。また，5 月 16 日（金）にはチュートリアルを開催予定である。なお，2026 年度年会の開催場所の選定は応用統計学会が担当する予定である。

5. 応用統計シンポジウム等の開催

2025 年度のシンポジウム等のテーマ，時期および開催場所については検討中である。

6. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

2025 年度のフロンティアセミナーのテーマ，時期および開催場所については検討中である。

7. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2025 年度統計関連学会連合大会（応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が主催）が 2025 年 9 月 7 日（日）～11 日（木）に関西大学千里山キャンパスで開催される予定である。企画セッションとして当学会は，

- ・ 「近年におけるロバスト統計の発展」（オーガナイザー：三枝祐輔（横浜市立大学），中川智之（明星大学））
- ・ 応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：星野崇宏（慶應義塾大学），松井秀俊（滋賀大学））

を企画運営する。

8. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

9. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリストを活用して，学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。

10. 広報活動

会員の募集のための広報活動を，X や連合大会（ブースの設置）など適切な媒体を使って行う。

1 1. 学会ホームページ

更なる機能向上を目指し、学会のホームページを更新する予定である。

1 2. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に、その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 一般財団法人 統計関連学会連合
- (2) 一般財団法人 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）
- (4) 統計教育連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
- (7) 一般財団法人 データサイエンティスト協会

1 3. 名誉会員

名誉会員の公募と選考を行う。

1 4. 選挙

2026－2027 年度の会長，副会長，評議員の選挙を実施する。

1 5. 理事会，評議員会，総会の開催

評議員会は 2025 年 5 月 12 日（月）にオンライン（Zoom）開催する。総会は年会終了後に開催し、年会をハイブリッド開催とするため、総会もハイブリッドでの開催とする。

また理事会はハイブリッドやオンライン（Zoom）、メール等によって必要に応じて開催する。

以上

IV. 2025年度予算案

1. 収入の部

勘定科目	2023年度予算	2023年度実績	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算
1. 会費収入	2,010,000	2,030,000	2,025,000	1,422,500	1,952,500
(1) 正会員	1,845,000	1,855,000	1,845,000	1,275,000	1,785,000
(2) 名誉会員	10,000	7,500	10,000	5,000	10,000
(3) 学生会員	55,000	45,000	47,500	42,500	57,500
(4) 賛助会員	100,000	120,000	120,000	100,000	100,000
(5) シニア会員	0	2,500	2,500	0	2,500
2. 雑誌売上収入	210,000	240,000	180,000	213,000	180,000
3. 広告料	90,000	90,000	60,000	30,000	60,000
4. 掲載料	250,000	140,000	250,000	10,000	240,000
5. 年会等関係収入	850,000	876,632	1,430,000	1,788,008	1,400,000
(1) 年会収入	250,000	344,932	360,000	894,608	400,000
(2) チュートリアル収入	150,000		540,000		150,000
(3) フロンティアセミナー収入	0	0	0	247,000	250,000
(4) シンポジウム等収入	450,000	531,700	530,000	646,400	600,000
6. 雑収入(著作権料・利息等)	100,000	111,975	100,000	63,766	100,000
当期収入合計	3,510,000	3,488,607	4,045,000	3,527,274	3,932,500
前期繰越金	6,503,852	6,503,852	5,806,056	5,806,056	5,253,546
収入合計	10,013,852	9,992,459	9,851,056	9,333,330	9,186,046

・1. 会費収入・・・個人会員の会費納入率を過去の実績に基づき93%として以下のように算出

(1) 正会員・・・357名(384名×0.93)×5,000円＝1,785,000円

(2) 名誉会員・・・4名×2,500円＝10,000円(原則、会費は無料であるが、発送希望者約4名分は会費が必要。)

(3) 学生会員・・・23名(25名×0.93)×2,500円＝57,500円

(4) 賛助会員・・・5件×20,000円＝100,000円

(5) シニア会員・・・1件×2,500円＝2,500円

・2. 雑誌売上収入・・・30件×6,000円＝180,000円として算出

・3. 広告料・・・2号分(Vol.54, No.1, No.2)を発行予定として30,000円(1号・1社あたり)×2で算出

・4. 掲載料・・・過去の実績に基づき算出(2024年度は120,000円のうち110,000円未収)

・5. 年会等関係収入

(1) 年会収入・・・2024年度実績および25年度年会参加登録状況から算出

(2) チュートリアル収入・・・2023年度(日本計量生物学会主催)の実績に基づき算出

(3) フロンティアセミナー収入・・・2024年度は会費無料予定から有料化した。2024年度フロンティアセミナーの実績に基づき算出

(4) シンポジウム等収入・・・2024年度シンポジウムの実績に基づき算出

・6. 雑収入・・・過去の実績に基づき算出

※5. 年会等関係収入(1)年会収入と(2)チュートリアル収入の「2023年度実績」および「2024年度実績」については、年度に跨った関係で、

当該年度分収入だけを年会・チュートリアルに分離するのが難しいため、(2)チュートリアル収入を(1)年会収入に含ませて計上

2. 支出の部

勘定科目	2023年度予算	2023年度実績	2024年度予算	2024年度実績	2025年度予算
1. 機関誌関係費	1,690,000	1,562,899	1,640,000	1,222,288	1,250,000
(1)印刷費	1,200,000	1,156,100	1,200,000	988,900	1,000,000
(2)校正費	340,000	258,000	340,000	136,800	150,000
(3)通信・発送費	150,000	148,799	100,000	96,588	100,000
2. 年会等関係費	770,000	1,050,305	1,320,000	1,333,004	1,020,000
(1)年会支出	350,000	826,833	600,000	787,181	700,000
(2)チュートリアル支出	50,000	0	450,000	329,025	50,000
(3)フロンティアセミナー支出	100,000	59,689	100,000	46,128	100,000
(4)シンポジウム等支出	270,000	163,783	170,000	170,670	170,000
3. 管理費	1,227,000	1,294,236	1,087,000	1,085,976	1,370,000
(1)事務委託費	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000
(2)消耗品費	90,000	147,807	90,000	93,327	100,000
(3)会議費	60,000	40,719	60,000	67,655	60,000
(4)雑費	160,000	152,486	160,000	145,358	260,000
(5)事務合理化費	17,000	20,900	17,000	20,900	20,000
(6)選挙費	150,000	182,324	10,000	8,736	180,000
4. 役員旅費補助	100,000	0	100,000	63,060	100,000
5. 関連学会協調事業費	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
(1)統計関連学会連合年会費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
6. 学会賞	60,000	68,963	60,000	70,816	70,000
7. 謝金	40,000	140,000	100,000	234,640	200,000
8. 「学会ホームページ」改修費	700,000	0	500,000	0	300,000
小計	4,657,000	4,186,403	4,877,000	4,079,784	4,380,000
9. 予備費	5,356,852	5,806,056	4,974,056	5,253,546	4,806,046
当期支出合計	10,013,852	9,992,459	9,851,056	9,333,330	9,186,046

- ・1. 機関誌関係費 … 2号分 (Vol.54, No.1, No.2)として以下のように算出
 - (1)印刷費 … 過去の実績に基づき算出
 - (2)校正費 … 2号分 (Vol.54, No.1, No.2)の50,000円(校正先変更に伴い2024実績を基に算出)とJ-STAGEデータ作成費100,000円
 - (3)通信・発送費 … 過去3年間の平均に基づき算出
- ・2. 年会等関係費
 - (1)年会支出 … 2023年度と2024年度の実績に基づき算出
 - (2)チュートリアル支出 … 2023年度(応用統計学会主催)の予算(50,000円)に基づき算出
 - (3)フロンティアセミナー支出 … 2023年度と2024年度の実績を考慮し, 今年度はハイブリッド開催の可能性があるため会場代を加味して算出
 - (4)シンポジウム等支出 … 昨年度シンポジウムの実績に基づき算出
- ・3. 管理費 … 基本的に過去3年間の平均に基づき算出
 - (3)会議費 … 2023年度, 2024年度の実績に基づき算出
 - (4)雑費…学会バンク関連の支出による増を見込み
 - (6)選挙費 … 選挙が行われる2023年度実績に基づき算出
- ・4. 役員旅費補助 … 過去の実績に基づき算出
- ・5. 関連学会協調事業費 … 統計関連学会連合年会費20,000円と横断型基幹科学技術研究団体連合年会費50,000円で算出
- ・6. 学会賞 … 優秀論文賞(30,000円), 奨励論文賞(10,000円), 名誉会員証, 賞状, 証書フォルダ等
- ・7. 謝金 … 各イベントでの講師謝金(2023年度実績ベース)
- ・8. 「学会ホームページ」改修費 … HP改修が必要になった際の予算として昨年度予算ベースで算出

V. 学会賞の報告

第1次選考，第2次選考の結果，以下の論文が選出された.

優秀論文賞：

Vol. 53, No. 2, 59–76. (2024)

「空間経時測定データに対する多変量関数クラスタリング」

新井 仁智，松井 秀俊，三角 俊裕，小西 貞則

奨励論文賞：

Vol. 53, No. 1, 33–54. (2024)

「重力波観測における突発性雑音の教師なし分類」

坂井 佑輔（共著者：寺田 吉壱，高橋 弘毅）

VI. 名誉会員の推挙

西井 龍映 氏

推薦理由：

西井龍映氏は、2004－2006 年度、2006 年－2008 年度編集理事として学会誌「応用統計学」の編集に尽力され、また、多期にわたり評議員として本学会の運営に貢献されました。

西井氏は、広島大学で長く教鞭を取られたのち 2003 年に九州大学に異動され、2011 年から 2019 年まで九州大学マス・フォア・インダストリ研究所・教授として社会や産業、諸科学分野における多様な課題の解決、社会からのニーズに応える人材育成に貢献されました。さらに、長崎大学の情報系新学部創設に大きく貢献され、2020 年 4 月から長崎大学 情報データ科学部の初代学部長として活躍されており、日本のデータサイエンス分野・応用統計学分野の教育に大きく貢献されました。

研究においては、大規模な時空間現象データの統計モデリングにおいて高精度で計算効率の良い解析方法を最新の機械学習手法なども用いて数多く提案されており、これらを降水量データや土地利用、森林面積減少の定量的解析に応用するなど、統計学の理論と応用に重要な成果を挙げられています。

このように西井氏の、統計学の理論、及び、応用研究と教育両面における業績は、卓越したものであり、応用統計学会に対する貢献も顕著です。

以上の理由から応用統計学学会名誉会員に推挙します。

VII. 名誉会員に関する会則改訂について

以下の改訂を行う。

新	旧	備考欄
会員 第 7 条 本会に入会しようとする者は、入会申込書に、次の各号に掲げる<u>もの</u>を添えて 提出し、理事会の承認を受けなければならない。 第 7 条 (2) 学生会員の場合は 1 年分の会費と正会員<u>または名誉会員</u>1 名の推薦。 第 11 条 (3) <u>名誉会員 正会員と同等の権利を有するが、会誌の配布を受けるには、別途費用の負担を伴う。</u> 総会 第 13 条 評議員会、または、正会員および<u>名誉会員</u>の 20 分の 1 以上から、議案を添えて総会招集の請求があったときは、会長は 3 ヶ月以内にこれを招集しなければならない。 第 15 条	会員 第 7 条 本会に入会しようとする者は、入会申込書に、次の各号に掲げる<u>者</u>を添えて 提出し、理事会の承認を受けなければならない。 第 7 条 (2) 学生会員の場合は 1 年分の会費と正会員 1 名の推薦。 第 11 条 総会 第 13 条 評議員会または正会員の 20 分の 1 以上から、議案を添えて総会招集の請求があったときは、会長は 3 ヶ月以内にこれを招集しなければならない。 第 15 条	修正 追加 新設 追加

総会は<u>正会員および名誉会員の 10 分の 1 以上</u>が出席しなければ開会することができない。ただし、委任状により表決権を委任した者は、出席とみなす。	総会は正会員の 10 分の 1 以上が出席しなければ開会することができない。ただし、委任状により表決権を委任した者は、出席とみなす。	追加
第 19 条 評議員 10 名以上、または、<u>正会員および名誉会員の 10 分の 1 以上</u>から、議案を添えて評議員会招集の請求があったときは、会長は 30 日以内にこれを招集しなければならない。	第 19 条 評議員 10 名以上または正会員の 10 分の 1 以上から、議案を添えて評議員会招集の請求があったときは、会長は 30 日以内にこれを招集しなければならない。	追加
第 21 条 評議員は、<u>正会員または名誉会員の</u>中から選挙によって選任する。	第 21 条 評議員は、正会員の中から選挙によって選任する。	追加
役員	役員	
第 26 条 役員の選任は次のように行う。 (1) 会長、副会長は<u>正会員または名誉会員</u>の中から選挙によって選任する。 (2) 理事は<u>正会員または名誉会員</u>の中から評議員会が推薦し、総会の承認を受けて選任する。	第 26 条 役員の選任は次のように行う。 (1) 会長、副会長は正会員の中から選挙によって選任する。 (2) 理事は正会員の中から評議員会が推薦し、総会の承認を受けて選任する。	追加
		追加

VIII. 名誉会員に関する細則改訂の報告について

以下の改訂が，2025 年度定例評議員会にて承認された。

新	旧	備考欄
会長，副会長の選出 第 6 条 正会員および名誉会員は会長，副会長の候補者それぞれ 1 名を，本人の内諾を得た上で推薦することができる。 第 7 条 正会員および名誉会員は，会長候補者名簿，副会長候補者名簿の中から，各 1 名ずつ無記名により投票を行う。 評議員の選出 第 9 条 本細則 8 条にて選出された会長，副会長は評議員を兼ねるものとする。その他の評議員の定数は 23 名以上とし，<u>正会員および名誉会員</u>による選挙で選出する。 第 10 条 <u>正会員および名誉会員</u>は<u>正会員・名誉会員名簿</u>にもとづき，次の各項に従って無記名投票を行う。 (1) すべての<u>正会員および名誉会員</u>の中から3名までの評議員候補	会長，副会長の選出 第 6 条 正会員は会長，副会長の候補者それぞれ 1 名を，本人の内諾を得た上で推薦することができる。 第 7 条 正会員は，会長候補者名簿，副会長候補者名簿の中から，各 1 名ずつ無記名により投票を行う。 評議員の選出 第 9 条 本細則 8 条にて選出された会長，副会長は評議員を兼ねるものとする。その他の評議員の定数は 23 名以上とし，正会員による選挙で選出する。 第 10 条 正会員は正会員名簿にもとづき，次の各項に従って無記名投票を行う。 (1) すべての正会員の中から3名までの評議員候補者を連記する。	追加 追加 追加 追加

補者を連記する。 監事・理事の選出 第 12 条 (1) 以下に掲げる職務分担の理事は、評議員会が、会長、副会長以外の<u>正会員または名誉会員</u>の中から推薦し、通常総会の承認を受けて選任される。また、理事の任期途中で欠員が生じた場合には、評議員会の承認により補充できる。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間までとする。 ○庶務理事（定数 3）組織管理／会議・文書・総会／情報・広報 ○会計理事（1 名以上 2 名以内）会計・経営管理 ○編集理事（1 名以上 2 名以内）会誌の編集・出版 ○企画理事（1 名以上 4 名以内）研究発表会、講演会、シンポジウム、各種研究会等の企画、調整 ○無任所理事（若干名）理事会の決定による特別任務、地区連絡 附則 <u>本会則および細則</u>は昭和 57 年 1 月 9 日より施行する。 昭和 58 年 9 月 13 日 改訂 平成 3 年 4 月 19 日 改訂	監事・理事の選出 第 12 条 (1) 以下に掲げる職務分担の理事は、評議員会が、会長、副会長以外の正会員の中から推薦し、通常総会の承認を受けて選任される。また、理事の任期途中で欠員が生じた場合には、評議員会の承認により補充できる。ただし、後任者の任期は前任者の残任期間までとする。 ○庶務理事（定数 3）組織管理／会議・文書・総会／情報・広報 ○会計理事（1 名以上 2 名以内）会計・経営管理 ○編集理事（1 名以上 2 名以内）会誌の編集・出版 ○企画理事（1 名以上 4 名以内）研究発表会、講演会、シンポジウム、各種研究会等の企画、調整 ○無任所理事（若干名）理事会の決定による特別任務、地区連絡 附則 本細則は昭和 57 年 1 月 9 日より施行する 昭和 58 年 9 月 13 日 改訂 平成 3 年 4 月 19 日 改訂	追加 追加
--	---	---------------------

平成 6 年 4 月 21 日 改訂	平成 6 年 4 月 21 日 改訂	追加
平成 13 年 4 月 5 日 改訂		
平成 28 年 5 月 28 日 改訂	平成 28 年 5 月 28 日 改訂	削除 修正
平成 29 年 5 月 20 日 改訂	平成 29 年 5 月 20 日 改訂	
令和 4 年 6 月 11 日 改訂 削除	令和 4 年 6 月 11 日 改訂	
令和 5 年 3 月 <u>23</u> 日 改訂	令和 5 年 3 月 <u>24</u> 日 改訂	
令和 6 年 1 月 24 日 改訂	令和 6 年 1 月 24 日 改訂	
令和 6 年 4 月 30 日 改訂	令和 6 年 4 月 30 日 改訂	追加 追加
令和 6 年 5 月 9 日 改訂	令和 6 年 5 月 9 日 改訂	
令和 7 年 5 月 12 日 改訂		
令和 7 年 5 月 17 日 改訂		